

## 日本語教師の資質・能力について

公益社団法人国際日本語普及協会

### 1. 協会について

公益社団法人国際日本語普及協会（通称 AJALT）は、1977 年に創立され、192 名（平成 28 年 4 月 1 日現在）の日本語教師会員からなる組織です。21 世紀の新しい多文化共生社会を目指す中で、日本語教育を通じて日本と日本文化を発信し、日本人と日本社会に関して、世界中のより多くの方々に理解を深めていただくことを社会的使命と考え活動しています。

協会では対象別日本語教育の企画と実施・教師養成プログラムの企画と実施・研究調査活動・地域在住の外国人に対する支援・協力・広報活動・教材開発と出版活動の 6 つの事業を行っています。→詳細はパンフレットをご覧ください。

### 2. 協会の日本語教師が目指すもの

学習目的に個別に対応する教育手法を開発しつつ、教育の現場に立って実践を深め、新しい日本語教育のあり方を追求する。

### 3. 日本語教師会員の募集について

年一回の日本語教師会員の定期募集並びに経験者の募集を随時行っている。

#### （1）日本語教師会員募集要項（定期）

- ・大学卒あるいは同等の学力を有する方
- ・日本語教育の基礎研修を修了した方
- ・日本語以外の言語 1 か国語以上に精通している方
- ・東京およびその周辺に在住し、当協会の研修後実働できる方

#### （2）日本語教師会員募集要項（経験者・随時）

- ・大学卒あるいは同等の学力を有する方
- ・日本語教育の経験 3 年以上の方、初級および中級・上級が教えられる方
- ・日本語以外の言語 1 か国語以上に精通している方
- ・東京およびその周辺に在住し、当協会の研修後実働できる方

### 4. 協会内での研修

月 2 回行われる定例会員研修並びに新入会員のための実践に向けての対象別研修

## 5. 求められる資質・知識・能力

### (1) 共通して求められる能力

#### 学習目的に沿ったきめ細かい効果的な日本語教育の実践、柔軟な対応ができる力

- ・学習者の日本語力を分析し、見極める力
- ・定められた学習期間の中で到達目標を定め個別のプログラムを構築することができる力
- ・目標設定と学習者自身の到達度を鑑み、プログラムを修正していく力
- ・教材に関する知識並びに分析力
- ・学習者の学習時間、到達目標に合致した教材を選択、または独自の教材を作成する力
- ・自身が日本語の卓越した表現者であること、あろうとする姿勢
- ・コースが終了した時に、更にこの先生と授業がしたいと思わせるだけの力量と人間的魅力を有する

### (2) 対象別に求められる能力

#### 外交官

- ・短期に学習者が「いい学習ができた」「知らなかったことが分った」という満足感を得られる授業が行える力
- ・「きちんと話せる」「正確に聴ける」「正しく読める」出来れば、「メールも書ける」能力が任務遂行上必要であるので、これらすべてをバランスよく入れ込む力
- ・外交官は担当分野の専門家に会って情報を得ていくため、よき質問者でなければならない。外交官も及ばない情報を提供して、担当分野情報に関して闊達に話し合う知識と能力
- ・外交や日本国内の諸問題に関して広く様々な分野の人々と話し合う機会を持つ努力が不可欠。自分の意見を言う前に深く考える力
- ・膨大な時間を使って世界中の諸問題に関心を持って、知っておくという地道な努力が不可欠

#### 研修生・技能実習生

- ・来日前に日本語研修で学んだ知識を運用力に繋げ、活性化させる
- ・教科書を順番に進めるのではなく、運用力を指導する力
- ・VT法やTPRを使って音声教授法を活用できる力
- ・大きなクラスサイズで学習者を飽きさせず教える力

#### 留学生

- ・日本語そのものの知識だけでなく、歴史、文化、社会事象等言語と切り離せない要素を合わせ理解し、教授活動に活かそうとする力
- ・学生と正面から向き合い、彼らの目指すところをしっかりと把握して効率良いプログラムを組み立てようとする姿勢
- ・自分の持つ知識に固執することなく、日本語研究、教授法の新たな成果を知る努力をする

### 年少者

- ・日本語教育の高いスキルと知識はもちろん、子供の認知能力と言語発達、情緒と社会性、母語と母文化の役割、現在の学校教育課程・学校文化に対する知識など年少者を教えるために必要な知識がある
- ・子供が自信を持って、もっと学びたいという気持ちになるよう励まし、一緒に喜べる共感力、子供の発達段階と現在の能力を冷静に見極める分析力、この二つをバランスよくもっている。
- ・子供が日本語に興味を持って取り組めるよう楽しく教えるスキルがある
- ・(日本の学校教育の中でしっかりと勉強できるよう)、早い段階から教科学習につなげる視点を持って指導できる
- ・人格的に高い教養を持ち、大きなスケールで物事をとらえられる力
- ・教員と連携を図り、互いの得意分野を出し合い教育に生かす力

### 難民

調査表及び別添資料に記載

以上

## 日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 **国内**・海外

日本語教育の対象者：難民

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 **日本語指導者**・日本語指導補助者・コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称：公益社団法人国際日本語普及協会 主な日本語教育事業 定住支援施設における難民集中日本語教育		
2. 養成・研修概要	1) 研修・講座の名称： 2) 研修の目的及び育成しようとしている人物像 3) 研修対象・受講資格： 4) 受講方法：(通信・通学など) 5) 研修実施時期及び期間：年〇回，〇月開講，3か月～2年 6) 研修実施時間数： 7) 受講料： 8) 教育実習・実践演習等の有無： 9) 修了要件： 10) 評価及び認定の方法： 11) 受講修了者の進路(活動分野)：		
3. 養成・研修の 科目一覧	科目(指導項目)一覧を記載してください。その際、次ページの平成12年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する(もしくは内容的に近い)か、番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。例)【理論編】ファシリテーション(★) 【実践編】フィールドワーク実習(⑩)		
4. 養成・研修の 内容	平成12年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。(例、 <del>文明</del> 、 <del>哲学</del> ) 追加科目を【 】に記載してください。		
	領域	区分	区分(①～⑯) 内容
	社会 ・ 文化 地域		①世界と日本 歴史、文化、文明、社会、教育、哲学、国際関係、日本事情、日本文学【 】
			②異文化接触 国際協力、文化交流、留学生政策、移民・難民政策、研修生受入政策、外国人児童生徒、帰国児童生徒、地域協力、精神衛生【 】
			③日本語教育の 歴史と現状 日本語教育史、言語政策、教員養成、学習者の多様化、教育哲学、学習者の推移、日本語試験、各国語試験、世界各地域の日本語教育事情、日本各地域の日本語教育事情【 】
			④言語と社会の関係 ことばと文化、社会言語学、社会文化能力、言語接触、言語管理、言語政策、言語社会学、教育哲学、教育社会学、教育制度【 】

に 関 わ る 領 域	言 語 と 社 会	⑤言語使用と社会	言語変種, ジェンダー差・世代差, 地域言語, 待遇・ポ ライトネス, 言語・非言語行動, コミュニケーション・スト ラテジー, 地域生活関連情報 【 】	
		⑥異文化コミュニケーションと社会	異文化需要・適応, 言語・文化相対主義, 自文化(自民 族)中心主義, アイデンティティ, 多文化主義, 異文化 間トランス, 言語イデオロギー, 言語政策 【 】	
	言 語 と 心 理	⑦言語理解の過程	言語理解, 談話理解, 予測・推測能力, 記憶, 視点, 言語学習【 】	
		⑧言語習得・発達	幼児言語, 習得過程(第一言語・第二言語), 中間言 語, 言語喪失, バイリンガリズム, 学習過程, 学習者タ イプ, 学習ストラテジー 【 】	
		⑨異文化理解と心理	異文化間心理学, 社会的スキル, 集団主義, 教育心 理, 日本語の学習・教育の情意的側面 【 】	
	言 語 と 教 育	⑩言語教育法・実習	実践的知識, 実践的能力, 自己点検能力, カリキュラ ム, コースデザイン, 教室活動, 教授法, 評価法, 学習 者情報, 教育実習, 教育環境, 地域別・年代別日本語 教育法, 教育情報, ニーズ分析, 誤用分析, 教材分析・ 開発 【 】	
		⑪異文化間教育・ コミュニケーション教育	異文化間教育, 多文化教育, 国際・比較教育, 国際理 解教育, コミュニケーション教育, スピーチ・コミュニケー ション, 異文化コミュニケーション訓練, 開発コミュニケー ション, 異文化マネージメント, 異文化心理, 教育心 理, 言語間対照, 学習者の権利 【 】	
		⑫言語教育と情報	教材開発, 教材選択, 教育工学, システム工学, 統計 処理, メディアリテラシー, 情報リテラシー, マルチメディ ア 【 】	
	言 語 に 関 わ る 領 域	言 語	⑬言語の構造一般	一般言語学, 世界の諸言語, 言語の種類, 音声的類 型, 形態(語彙)的类型, 統計的类型, 意味論的类型, 語用論的类型, 音声と文法 【 】
			⑭日本語の構造	日本語の系統, 日本語の構造, 音韻体系, 形態・語彙 体系, 文法体系, 意味体系, 語用論的規範, 表記, 日 本語史 【 】
			⑮言語研究	理論言語学, 応用言語学, 情報学, 社会言語学, 心理 言語学, 認知言語学, 言語地理学, 対象言語学, 計量 言語学, 歴史言語学, コミュニケーション学 【 】
			⑯コミュニケーション 能力	受容・理解能力, 表出能力, 言語運用能力, 談話構成 能力, 議論能力, 社会文化能力, 対人関係能力, 異文 化調整能力 【 】
	5. 特徴的な内容	貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して, 特徴的な内容や近年の変化・ 変遷がありましたら, 記載をお願いします。		

<p>6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力</p> <p>※御参考:平成12年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添</p>	<p>1) 資質 2) 知識 3) 能力 について平成12年報告に示された, 下記内容について該当する場合は, □に☑を付けてください。また, 活動分野及び役割別の 1) 資質 2) 知識 3) 能力 については, □以下に記載をお願いします。</p> <p><b>1) 資質</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>鋭い言語感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として, 豊かな国際的感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として, 豊かな人間性を備えている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の専門性を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p> <p>・</p> <p>・</p> <p><b>2) 知識</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語使用に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語発達に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語の習得過程に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本の教育制度に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本の歴史・文化事情に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>諸外国の教育制度に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p> <p>・</p> <p>・</p> <p><b>3) 能力</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語を正確に理解し的確に運用できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識, 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識, 言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>教育課程の編成, 授業や教材等を分析する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>教育課程の編成, 授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p> <p>・</p> <p>・</p>

<p>7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準</p>	<p>① 現在、授業以外に講師研修・養成の時間、予算が取れる状況ではないが、AJALTにおいて日本語教師としての専門性を有するものの定住施設においては経験の浅い講師には授業の見学を奨励し、ときには補助をしてもらう中で実践を通じた形での研修を行っている。その場合、同じチームの中で専門性を有する経験豊富な教師の授業を見学するように推奨している。</p> <p>② 毎日の授業の実践報告の中から、講師間での共有が有益だと思われる項目を自薦・他薦し、講師連絡会の際に時間をとって研修を行っている。講師の有志が授業に有益と思われる指導方法を紹介し、全員で研修しながら深めていく方法もとられている。</p>
<p>8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果</p>	<p>① クラスは複数の教師によるチーム・ティーチングだが、上記経験の浅い講師は7. ①で述べた方法でクラスに入り込むことにより、レベルの違う学習者の混在するクラスでの教え方や個々の学習者への接し方等を学び、その過程で難民教育に対する理念を体で吸収していくこととなる。</p> <p>② 入り込みの形は上記経験の浅い教師に限らず、ある程度経験のある教師に対しても行われる。こうしてクラスが教師間にすべて開放されることにより、独りよがりにならず、複眼的な視点で授業を組み立てていくことができる。</p> <p>③ 7. にあるように、研修する者⇄される者という関係を超え、講師たちがお互いの授業を見学したり、共有すべきものを持ち寄って学びあったりするという双方向型の研修を行うことが、結果的に教師集団としての成長につながっている。</p>
<p>9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題（改善を検討したい点）と展望</p>	<p>① 上記経験の浅い教師に対しては、現行の授業に入り込む形での研修は大変に意義があり、必要なものだが、その前段階として難民に対する日本語教育についての集中的な研修が望まれる。</p> <p>② ある程度難民教育を経験した教師に対しては、日々の実践報告をもとに切磋琢磨できるような研修の場があればよい。</p> <p>③ 今後、難民に対する日本語教育に関心をもつ人材の裾野を広げていくために、日ごろから難民および難民に対する日本語教育への理解を得るためのセミナーや研修を行うことができれば望ましい。</p>
<p>10. その他</p> <p>（人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら、記載してください。）</p>	<p>講師研修の機会を増やすための予算をお願いしたい。</p>

## 「難民」に対する日本語教育に高い専門性が求められる理由

「『難民』に対する日本語教育」と言った場合、「文化庁事業である定住支援施設における『難民』に対する日本語教育」と「地域に隣人として住んでいる表に出てこない『難民』に対する日本語教育」とは分けて考える必要があると思われる。以下では主に前者について、その担い手の日本語教師には高い専門性が求められることを記す。

他方、後者であっても、これを担う支援者には、「生活者としての外国人」に対すると同じく同様の専門性に加え、難民のもつ背景とその特殊性への理解、またそれに伴う個々の難民へのカウンセリングマインド等が必要とされることは明白である。ただし、このような支援者が育っていくためには、まず前提として、地域で難民を受け入れる人たちに対し、難民について理解をしてもらうための十分な広報活動が必要である。

### ★難民の定住支援施設における日本語教育に携わる日本語教師に高い専門性が必要な理由

#### ① 難民と他の「生活者としての外国人」との相違

難民とは、祖国を出ることを余儀なくされ、圧倒的に帰国できない状況下で暮らす人々である。この点において、ほかの多くの「生活者としての外国人」とは一線を画す。日本国はその彼らに対し、日本で生活していけるよう支援する責任を負っている。定住支援施設における日本語教育は、閣議了解のもと国策として、定住促進と円滑化を目的として行うこの難民対策の一環であり、つまりその後、地域で暮らす「生活者」としてソフトランディングできるための「入口」と言える。よって、これを担う日本語教師には高い専門性が必要とされる。

#### ② 限られた条件下での日本語教育

572時間という「限られた時間で」「集中的に」「一定の予算の下で」行う日本語教育プログラムで、基本的に「クラス授業」である。教師は、母語も年齢も日本語レベルも在日年数も、難民としての背景も異なる多様な学習者を相手に、1つのクラスで集中的に長時間教えなければならない。（地域の日本語教室でよく行われているマンツーマンではない）。

#### ③ 対象が複雑

定住支援施設で学ぶ難民は「難民」という言葉で一括りにできないほど、様々な背景を持っており、難民として来日した経緯についても甚だしく個人差がある。例えば「インドシナ難民」「条約難民」「第三国定住難民」と言っても、時代や入所期毎に大きな差がある。他方、母国の保護を受けられないという点において、他の「生活者としての外国人」とは明確に異なり、定住支援施設に入所するまでに精神的・肉体的に辛い経験をし、トラウマを抱えている人も多い。教師はこのような個々の複雑な状況を十分に理解していなければならない。

- ④ 上記①～③を踏まえ定住支援施設における日本語教師に求められる力には、  
例えば以下のようなことを挙げることができる。

このうち a～e は日本語教育全般に求められる専門性であるのに対し、f . g. は難民に対する日本語教育において特筆すべき専門性である。また、h～j は必ずしも難民に対する日本語教育に特化した専門性ではないが、生涯教育の視座から難民教育を捉えた場合、定住支援施設の教師にとり欠かせない力である。また、k. は定住支援施設の教育体制を支える力であり、l. は教師の人間力として当然求められる力と言えよう。

- a. コースの理念、目的を明確にしたコースデザイン、カリキュラム開発力
- b. 日々の授業実践力
- c. 教材開発力、教材についての知識
- d. 評価に関する力（日本語教育の成果分析、学習者の自己評価を促す力、指導振り返る力等）
- e. 年少者に対する日本語教育の専門性
- f. 非識字者に対する日本語教育の専門性
- g. 個々の難民の特殊性に配慮し個別に向き合える力（カウンセリング マインド）
- h. 関係機関の、必ずしも日本語教育の専門家でない人に対し日本語教育を説明する力
- I. 他の専門家（例えばRHQにおいては職業相談員、日本語教育相談員、生活相談員、心理カウンセラー、業務課職員等）と連携して定住支援プログラムを推進していく力
- j. 学習者と外部（地域や定住先の支援者等）を繋ぐコーディネート力
- k. 協働で教えるチームティーチングの力（教師も力を合わせ、助け合う必要がある。）
- l. 言語および社会文化、世界情勢に関する幅広い知識と分析力、柔軟な実践力、コミュニケーション力、そしてなにより温かい心と難民支援に対する熱意

要するに定住支援施設における難民に対する日本語教育には「高い専門性のある教師集団としてのチーム力」が必要と言える。

（\*日本語教育小委員会（H28.05.13）参考資料4(2)日本語教員養成の新たな教育内容に記述されていることは全て定住支援施設で日本語を教える教師に必要とされていることである。）

以上

## 2016年度 AJALTの著作教材を活用した 日本語教師のための夏の教え方講習会

経験ある講師が少人数制で、実践例とともに、対象別コースデザインの秘訣をお伝えします



### 社会人一般（初級）への教え方

- 7月16日（土）“Japanese for Busy People I”を活用した授業の方法
- 7月23日（土）“Japanese for Busy People II”を活用した授業の方法
- 7月30日（土）“Japanese for Busy People III”を活用した授業の方法

### ビジネスパーソン（中上級）への教え方

- 8月06日（土）“Japanese for Professionals”を活用した授業の方法

### 海外や外国人学校で学ぶ年少者への教え方

- 8月13日（土）“Japanese for Young People”を活用した授業の方法

### 日本の小中学校で学ぶ年少者への教え方

- 8月20（土） 年少者支援と“かんじだいすきシリーズ”を活用した授業の方法

### 留学生や会社員として働く外国人への教え方

- 8月27日（土）“1日10分のシャドーイング! 就活・仕事のにほんご会話”を活用した授業の方法

### 技能実習生や現場で働く外国人への教え方

- 9月3日（土）“あたらしい じっせんにほんご”を活用した授業の方法

【各講座】13:00-17:15(含休憩) / 受講料 10,800円(税込) / テキスト割引あり / 定員12名  
お申し込みは、当協会HPより受け付けております。 <http://www.ajalt.org/teach/teacher/>

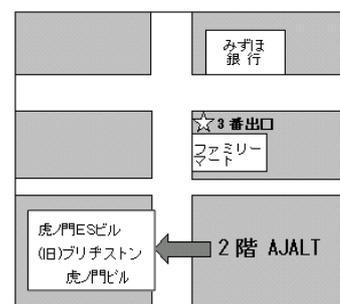
★★★ 申し込み受付中!! ★★★

公益社団法人 国際日本語普及協会 (AJALT)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門ESビル 2階

TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660 E-MAIL: [kenshu@ajalt.or.jp](mailto:kenshu@ajalt.or.jp)

(東京メトロ 日比谷線 神谷町駅 ☆3番出口より徒歩1分)



## ★★★日本語教師のための夏の教え方講習会 2016★★★

★お申し込み詳細は次頁のご案内をご覧ください。

### ●社会人一般（初級）への教え方

I. 7/16（土） II. 7/23（土） III. 7/30（土）

社会人に最適な話題を中心としたシラバス構成により、楽しく効果的に日本語学習を進められると高い評価をいただいている社会人向け初級教材“*Japanese for Busy People*”シリーズの指導法です。

### ●ビジネスパーソン（中上級）への教え方

8/6（土）

ビジネスパーソンを対象としたテキスト“*Japanese for Professionals*”の概要と個人授業・少人数クラス授業での使用例を紹介し、受講者の方々それぞれの環境下での活用法をワークショップ形式で検討します。

### ●海外や外国人学校で学ぶ年少者への教え方

8/13（土）

海外や外国人学校で学ぶ子どもたちへの日本語教授法を学びます。成人と年少者の教え方の違いに焦点をあて、子どもたちが日本語を好きになるような楽しい教え方を考えます。当協会著作の“*Japanese for Young People*”をはじめ、様々な教材を用いながら、AJALTが長年培ってきた年少者への日本語教育の基本をご紹介します。

### ●日本の小中学校で学ぶ年少者への教え方

8/20（土）

国内の公立小・中学校には、外国にルーツを持つ子どもたちが在籍しています。前半は、日本の学校文化への適応、級友や先生とのコミュニケーションや教科学習の問題を事例に沿ってお話しします。後半は、教科学習の鍵となる漢字の習得について、『かんじ だいすき』シリーズを参照し、具体的に考えます。

### ●留学生や会社員として働く外国人への教え方

8/27（土）

**NEW!**

大学や日本語学校・専門学校を卒業後、日本企業・日本関連企業への就職を目指す留学生・就学生、また既に働き始めている外国人を指導するみなさまに、『1日10分のシャドーイング！就活・仕事のにほんご会話』の効果的な進め方をお伝えします。学習者が次々と直面する場面で、マナーを伴った適切な敬語表現、相手に伝わりやすい発音・発話のスキル向上を目指した指導を限られた時間内にどう取り入れるか、現場で留学生や現役ビジネスパーソンへの指導事例を交え、シミュレーションしながら進めます。

### ●技能実習生や現場で働く外国人への教え方●

9/3（土）

技能実習生や働く外国人が会う様々な場面や現場を活用して、コミュニケーションを大切にしながら、現場で役立つ日本語を身につけてもらう効果的な指導法をお伝えします。講習会では『あたらしいじっせんにほんご』をベースに、座学の方式にとらわれない、現場に即した実践的な指導法をご紹介します。